

2018-19 年度

WEEKLY REPORT



インスピレーションになろう

2018-19 年度 R.I. 会長

バリー・ラシン

Rotary
Club of Nagoya Meieki

クラブ会長方針「若返ろう！ ロータリー活動を通じて」

スローガン「自分たちの足元を照らそう」

名古屋名駅ロータリークラブ
承認：1991 年 4 月 17 日
例会日：水曜日 12:30～
例会場：名鉄ニューグランドホテル

会 長：米坂みよ古
副 会 長：山本裕三
幹 事：加藤祐一
クラブ会報：小俣憲司

●名古屋名駅ロータリークラブ 事務局：TEL.052-453-0808 FAX.052-453-0800 E-mail：meiekirc@f5.dion.ne.jp http://www.nagoya-meiekirc.com

第1295回例会

入会式／創立28周年記念例会

小児がんの先端医療で、多くの子供たちに笑顔を！

2019年4月10日(水)

(平成31年)曇 No.32

- 司会 広井幹康 会場運営委員
- ロータリーソング「Welcome to Meieki！」
- ゲスト紹介
名古屋大学大学院医学研究科小児科学教授 高橋義行様
元米山奨学生 チンさん

- 出席報告(ビクター受付31名)会員総数88名(免除者16名)
義務者出席55名 免除者出席10名 総数65名
出席率79.27% 3月27日分修正出席率96.43%



会長あいさつ

米坂みよ古会長

本日、新メンバーの大西さん
をお迎えしました。またゲスト
にチンさんもお迎えしています。

今日は私ども名古屋名駅RC
創立28周年記念例会です。後程、椿賞表彰式を行い、
受賞者の高橋義行様に卓話を頂きます。

さて、今日は「驚直去」という言葉を紹介します。
「驚直」は「まっすぐに」の意味で、「まっすぐに去れ」
ということです。「驚直去」は禅宗の用語で、「迷わ
ずにまっすぐ進め」という意味に使われます。

13世紀、鎌倉幕府8代目の執権、北条時宗のと
ころに蒙古の使者がやってきて、属国になれと迫りま
した。その時わずか17歳だった時宗は、使者に酒と
女をあてがって一時はしのぎますが、再び使者は返
事を迫ってきました。どうすべきか分からない時宗
は、中国から円覚寺に來ていた無学祖元に助けを求
めました。その時の教えが「驚直去」です。

しかし、時宗はこの意味が解けません。自分の額
を壁に叩きつけ、血だらけになって自分と戦う中で
彼はついに忽然と悟り、蒙古の使者の首を刎ねます。

「驚直去」、つまり、まっすぐ直線に突き抜けろ、
避けてはいけない、逃げてはいけない、酒と女をあ
てがったところで、そんな小手先細工では国を救え

ないぞ、と無学祖元は時宗に教えた訳です。

運命を決める大事な判断で、人は迷います。しか
し大きな決断の多くは二者択一であり、やるかやら
ないか、右に行くか左に行くか、中止するか続行す
るか、です。その時に迷わず、逃げず、ただひたすら
に前を向いて一歩踏み出し、まずやってみる。これ
を「驚直去」という言葉で表しています。

これはロータリアンとして著名な深川純一先生
が職業奉仕の意味を表す言葉として紹介しています。

椿賞受賞の高橋先生は、1人でも多くの子供たち
の命を助けるために、ひたすら前を向いてまっす
ぐに日々現場で治療と研究に当たられています。私
たちは満場一致で椿賞を贈らせて頂くことにしまし
た。これからも、小児がんの子供たちを1人でも多
く救うために頑張って頂きたいと思います。

□幹事報告 加藤祐一幹事

- (1) 4月17日(水)の例会には、ダフネさんとお母さん、
各ホストファミリーが参加されます。また、城戸
茂樹さん、鈴木 歩さん2名の入会式があります。
- (2) 地区研修・協議会／4月14日(日) ナゴヤキャッ
スル：11時30分～ 受付開始、食事。13時～ 本会議、
分科会。16時55分終了。当日、遅刻・欠席等緊急
事態が生じた際は、早川次期幹事、加藤友康次期
副幹事の携帯電話に必ずご連絡下さい。
- (3) 第9回理事会(3月27日(水))の議事録を開示しま
す。ご希望される会員は幹事までご連絡下さい。

4月は母子の健康月間／名駅RC春の健康感謝月間です

< 例会開催予定 >

◇第1296回 4月17日(水) 通常例会(和食)

新会員卓話 長谷川徹さん

入会式 2名 城戸茂樹さん 鈴木 歩さん

【例会前】入会説明会 11:00～

※4月18日(木) 東日本大震災チャリティコンサート(日本特殊陶業市民会館)

◇第1297回 4月24日(水) 通常例会(カレー)

青少年月間卓話 岡田地区青少年奉仕委員長

【例会後】第10回理事会

5月1日(水)・5月8日(水) 休会

2018-19年度 第9回入会式

◇歓迎の歌

前田 要 ソングリーダー

★大西 和彦さん



(国際奉仕委員会)

(推薦者の言葉 神保 誠さん：大輪 穂さんの代理) ジェイテクト・高橋伴和さんの後任です。49歳で大阪出身です。

私は大阪の出身で、名駅で勤めて11年になります。ロータリークラブは分からないことばかりですが、皆様にご指導頂き、この会で一回りも二回りも成長したいと思います。何卒宜しくお願いします。

◇バッジ・「ロータリーの目的」の授与

□同好会報告：駅味会のご案内

駅味会

笹谷俊道世話人

久しぶりに駅味会を開催します。桑名のハマグリ鍋を皆さんで楽しんで頂きます。6月18日(木)18時～21時の予定です。桑名のハマグリは5月6月7月が旬であり、特に真ん中の6月、しかもその真ん中の18日を予約してあります。桑名駅まで近鉄特急でわずか15分、桑名駅からタクシーで5分です。12名限定です。おいしいハマグリをお楽しみ下さい。

第28回椿賞表彰式

椿賞委員会

寺島洋治委員長

第28回椿賞受賞者は、名古屋大学大学院医学研究科小児科学教授 高橋義行先生に決定しました。高橋先生は昨年度に卓話をして頂いたのでご存じの方も多いと思いますが、改めて大橋誠之副委員長から紹介して頂きます。

大橋誠之副委員長

今回の椿賞は、理事・役員、そして名駅RC会員皆様のご賛同を得て、高橋先生が受賞されることになりました。僭越ながら推薦者として厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございます。

高橋先生は1992年3月に名古屋大学医学部を卒業され、第一赤十字病院や名城病院を経て、2001年6月から約5年間海外留学をされました。2006年1月に名古屋大学附属病院の小児科に着任され、2016年10月に名古屋大学医学部小児科の教授になられました。では高橋先生、宜しくお願いします。

◇表彰状と目録を贈呈

米坂みよ古会長



第28回椿賞受賞記念卓話



「小児がんの先端医療

～未来を担う子供たちを支える～

名古屋大学大学院
医学研究科小児科学教授
高橋義行様

本日は名古屋名駅RC様から椿賞という非常に温かいご支援を頂き、ありがとうございます。また、名駅RC様からご支援頂いた「心に残る医療絵画コンクール」は無事3月31日に表彰式を行うことが出来ました。厚く御礼申し上げます。

昨年2月にもこの会で、小児がんの先進的な治療についてお話をさせて頂きました。小児がんというのは15歳までの子供に発生するがんです。大人のがんは大腸がん、肺がん、乳がんが多いのですが、子供の場合は白血病が最も多く、3～4割を占めます。先々月、池江選手が18歳で白血病になったことで非常に話題になりました。

小児がんの発生数は、日本で年間2,000人と少なく、まれな病気ではあります。しかし、子供の病死の原因では第1位です。日本では今も毎日2人ずつ子供が小児がんで亡くなっているのが現状です。少子化の進む我が国においては、先進医療を通じて治療を充実させなければなりません。

○名古屋大学病院は、小児がん拠点病院のトップ

そこで2013年、厚労省は15の小児がん拠点病院を選びました。大人のがん拠点病院は400程ありますが、小児がんは希少疾患ですので、日本中で15の拠点病院に患者さんを集め、そこで治療をしようということです。選定の際、厚労省は15の拠点病院に1位～15位まで評価点をつけたのですが、名古屋大学病院は評価点で最高点を頂きました。

先月、6年ぶりに再度15病院が選定されました。2013年から1病院、入れ替えがありました。今回は順位は公表されていませんが、名古屋大学病院が今回も1位だったと聞いております。

名古屋大学病院が2回連続で全国1位の小児がん拠点病院になったことには理由があります。小児がんの発生は東京がもちろん一番多いのですが、東京には非常に多くの大学病院があります。愛知県は小児がんの発生は東京の約半分ですが、4つの大学病院しかありません。ですので、特に名古屋大学に集中して患者さんが来られるということです。

また、歴史的にもこの地区は骨髄移植が非常に盛んです。日本で初めて骨髄バンクが出来たのも名古屋です。そういったこともあり、子供の骨髄移植数でも名古屋大学病院は日本で1、2を争っています。

昨年10月、本庶 佑先生ががん免疫療法の開発でノーベル医学賞を受賞し、がん医療では今「がん免疫療法」がホットトピックになっています。今までがん・白血病の治療は、抗がん剤、放射線治療、外科手術の3つが柱でしたが、この3つで治せないがん

患者さんが免疫で治せるようになったということで、2013年に雑誌『サイエンス』は、「医学の分野で最も進んだ出来事」としてがん免疫療法を選びました。

昨年11月に京都で開催された国際小児がん学会で本席先生の特別講演があり、嬉しいことに私が座長をさせて頂きました。

私は本席先生とツーショットで壇上にあがりました。私は、子供の領域ですががん免疫を25年程研究してきましたので、感無量でした。

講演の最後、本席先生は「がんを免疫で治すことにより、あと20年したらがんはもはや死ぬ病気ではなくなる」と結びました。会場はスタンディングオベーションが起こりました。非常に感動的でした。

最後にツーショット写真を撮って頂き、その写真は自宅の部屋に飾って宝物としております。

○日本でもCAR-T療法を

2017年アメリカで、がん免疫療法のCAR-T療法（キメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞療法）が、急性リンパ性白血病の特効薬として世界で初めて承認されました。急性リンパ性白血病は、子供のがん死亡者数第1位の病気です。今までは骨髓移植が切り札で、骨髓移植後に再発すればもう治す術がありませんでした。ところが、骨髓移植後に再発した患者さんがCAR-T療法を受けたら、8～9割の患者さんで白血病が消えたという報告されました。

CAR-T療法は、患者さんの血液を採ってリンパ球を取り出し、遺伝子を導入して、自分のT細胞をがんが殺せるような形に変えて患者さんに戻してあげる治療法です。導入する遺伝子は、白血病やがんを目印として認識するモノクローナル抗体です。それを導入すると、白血病がいち早く分かるレーダーを搭載したようなT細胞になります。

ところが問題があります。費用です。アメリカでも医学雑誌などでは、「非常に劇的な効果だが、費用が5,000万円を超えてしまうかもしれない」「これは一般的に使われるのではなく、お金持ちに限定された、非常に高価な療法だ」などと言われました。

日本でも先月、これと同じ薬が承認されました。患者さんには朗報です。各種報道でも、非常に素晴らしい出来事だと伝えられましたが、「しかしながら」というおまけがついていました。例えば「保険医療が破綻する懸念がある」「1回5,000万円になる超高額な治療薬が承認された」などです。

日本では患者さんが払う医療費には上限が設けられていて、高額医療でも月最大で20万円程です。5,000万円なら、4,980万円は税金となり、医療保険制度に影響を与えかねないと懸念されています。

そこで、私たちはかねてから、安いコストで遺伝子導入が出来る「酵素ベクター法」に着目していました。信州大学の中沢教授がアメリカ留学中に、酵素ベクター法でもCAR-T細胞が作れることを発表していました。ところがこの時は遺伝子が入る効率が5%と少なく、製薬会社さんは見向きもしませんでした。そこで、名古屋大学と信州大学が共同

で研究し、最終的にはオリジナルの10倍の50%程遺伝子が入るようになり、高額なウイルスベクター法と遜色がないということで特許を出願しました。

私たちが使っている酵素ベクターはpiggyBacトランスポゾン法と言います。中沢教授が論文を出した時にアメリカのNCI（国立がん研究所）の先生は、「より早く、より安く、より安全なCAR-T療法だ。これは現在の高額なウイルスベクター法に取って代わる現実的な選択であり、費用が安く世界中に広がり得る治療法だ」と絶賛しました。

私たちは昨年から厚労大臣より認可を得て、製造したCAR-T細胞療法の試験を行っています。大学病院でこの許可を頂いたのは、日本中で名古屋大学病院の小児科だけです。

そして昨年6月には、愛知県蒲郡市にあるジャパン・ティッシュ・エンジニアリングという会社が、我々の技術をライセンス契約して日本で承認を目指すということで、契約を結ぶことが出来ました。早ければ今年中にも試験を開始し、2年程後には承認を得たいと思っています。

私たちがCAR-T療法の開発を始めた1つの理由に、乳児白血病だったゆめちゃんが存在があります。お父さんから骨髓移植をした半年後に再発し、アメリカでCAR-T療法を受けるため募金で1億円集めたのですが、病状悪化や、日本からの受け入れはやはり出来ないという受け入れ側の事情で、残念ながらたどり着けませんでした。

3年前、CAR-T試験が行われていたのは、アメリカが48試験、次がなんと中国で19試験、ヨーロッパは8試験、日本はたったの1試験でした。それが去年は、中国がアメリカを追い抜いて1位、アメリカが僅差で2位、ぐんと下がってヨーロッパなどとなり、日本ではほとんど行われていません。これはまずいだろうというのが私たちの主張です。

中国ではすでに800人以上の子供がCAR-T療法の恩恵を受けています。私たちは、北京児童病院、台湾出身のチャン先生と共同研究をしており、2年前には私の患者さん2人を北京児童病院に連れて行ってCAR-T療法を受けました。2人ともあと1～2ヶ月しか命がないという状態でした。CAR-T療法を受け2年以上経ちますが、今は2人ともとても元気で、学校にも行っています。

○更には、国際貢献や社会貢献も

昨年夏には、タイの東大と言われているチュロンコン大学から、「タイの子供たちにもCAR-T療法をしたいが、ウイルスベクター法は高い。名古屋大学の安い方法でやらせてもらえないか」という申し出がありました。私たちは、タイの子供たちが助かるならと無償で提供することにしました。この秋からタイでもCAR-T療法を開始する予定です。

タイでうまくいけば、このモデルでベトナムやフィリピンなど他の東南アジアの子供たちも助けてあげたいと思っています。

そして、私たちはがん免疫療法だけでなく、社会

貢献もしたいと思っています。そうした気持ちはきっと名駅RC様と通ずるものがあると思います。

3月21日には、中部地区17病院の小児がんの子供たちとその家族70名を、ナゴヤドームのオープン戦へ招待しました。これも何百人もの方から寄付を頂いたおかげで実現することが出来ました。

また、日本医学会総会の市民向けの企画で、子供を対象にした「心に残る医療絵画コンクール」では、名駅RC様に多大なご支援、ご寄付を頂き、ありがとうございました。受賞した子供たちの目がキラキラしていて、とても素晴らしい表彰式でした。

それから、名古屋大学とReady forというクラウドファンディングで、子供専用ドクターカー購入と、子供がCT、MRIを怖がらないようにするための装飾費用に寄付を募っています。宜しければ是非またご協力を頂ければと思います。

最後になりますが、名古屋大学病院は我が国の小児がん治療における最後の砦として、少しでも多くの子供たちに笑顔を届けるため、新規治療法の開発などに引き続き努力して参ります。今回は椿賞の多大なるご支援、本当にありがとうございました。

懇親会

◇司会 種瀬徹也親睦活動・家族委員長

◇あいさつ 米坂みよ古会長

平成最後の記念懇親会です。1991年、今から28年前の4月に、佐藤勤三初代会長のもと、「名駅から世界へ」というテーマを掲げ、66名のチャーターメンバーで私どものクラブはスタートしました。昨年は名駅RCからガバナーも輩出できましたし、皆さんの努力のおかげで現在88名という立派なクラブに成長しました。今日は皆さんと楽しくお祝いをしたいと思いますので、宜しくお願いします。

◇乾杯 大橋昭治第14代会長

私が今日の出席者の中で一番古い会長だそうで、ご指名を受けました。今日は28周年ですが、向こうの方から佐藤勤三初代会長が「名駅RC、よくやっ



ているぞ」と声をかけてくれていると思います。

では、名駅RCの28年の歴史に感謝し、益々発展しますように、併せて、椿賞の高橋先生のご活躍を祈念して、乾杯！

◇歓談

◇閉会のあいさつ・一丁締め

山本裕三副会長

親睦を深めている最中ですが、そろそろ終了の時間です。

目の前にある壺は、台北建成RCから頂き、非常に重いのですが、米坂会長が担いできてくれたものです。是非ご覧下さい。



最後に、一丁締めできれいに締めたいと思います。それでは、よーお、パン！



ニコボックス

- 新会員・大西和彦さんをお迎えして。本日の卓話、高橋義行様、宜しくお願いします。(米坂みよ古さん)
- 高橋義行先生、椿賞受賞おめでとうございます。今後のご活躍をお祈り致します。(小室健次郎さん)
- 高橋先生の椿賞受賞おめでとうございます。大西和彦さんの入会、歓迎します。(西川達郎さん)
- 高橋先生、椿賞受賞おめでとうございます。今後のご活躍を期待しています。(加藤祐一さん)
- ①28周年。30周年まであと2年ですね。②高橋先生の活動をもっと応援しましょう。(神野重行さん)
- 28周年を記念して。(飯田容子さん)
- 28周年を記念して。(大川 宏さん)
- 娘が13日に新宿御苑の桜の花を見る会に招待された記念に。(二ノ宮眞佐恵さん)
- 分からないことが多く、ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い致します。(大西和彦さん)
- 大西さんの入会を祝して。(田口 望さん)
- 高橋先生、椿賞受賞おめでとうございます。これからも益々ご活躍されることを祈念しております。(大橋誠之さん)
- 高橋先生の椿賞受賞をお祝いします。病める子供たちに明るく未来を照らすご努力を心より期待しています。(寺島洋治さん)
- 健康に感謝して。(4名)

